2005年度

カンボジア・スタディツアー参加者報告

（財）日本ユニセフ協会は、カンボジアとモンゴルで事業を指定した募金を行い、支援をしています。毎年、子どもたちの状況や事業の取り組みを先生たちに実際に視察していただき、学校や地域で学習や広報活動に役立てていただいています。今回、2005年度のカンボジア・スタデイツアーに参加された高校の先生の感想と意欲的な取り組みをご紹介します。

※ 5ページの子ども物語の「解説」で視察内容をご紹介しています。

視察先のスタッフとスタディツアー参加者
Ⓒ日本ユニセフ協会

日　程	2005年7月24日（日）～31日（日）
日本ユニセフ協会の支援事業	いまだにきびしい子どもの状況を改善するために、ユニセフは政府や州などと協力して活動を行っている。学校事業部では、子どもの権利に基づき、現在、７州で実施されている地域での子どもの養育と教育を推進する「セッコマー（子どもの権利）プログラム」を支援している。
視察概要	①幼児ケアの質を向上させ、サービスが提供される地域を拡大する支援活動 ②より多くの子どもが質のよい教育を受けられるようにする支援活動 ③識字教室や職業訓練所などの施設をつくる支援活動

大阪府立三島高等学校　　松井克行 先生

● 応募の動機 ●

これまで地歴公民科の教員として、「現代社会」や「政治経済」等の授業で、国際連合や国際協力について説明してきた。ユニセフの活動についても、『世界子供白書』、『T・NET通信』等の資料に基づき、最新の話題や統計を踏まえて授業を行うよう心がけてきた。また『ユニセフの開発のための教育』等の「参加体験型教材」を活用し、南北問題の構造的理解や途上国の人々への共感的理解を深めさせ、他人事ではなく自己との関係性で問題を捉えられるような生徒の育成を目指してきた。

しかしながら、これまで実際にユニセフの活動現場を訪問したことがなく、援助活動の詳細や現地の様子を把握していないため、資料内容を超えて補足的な説明をすることができず、今ひとつ実感が伴わない生徒に対し、効果的な「指導・助言」を与えられないことがしばしばあった。文献やビデオ等の資料だけに頼るには、やはり限界がある。「百聞は一見に如かず」との諺に従い、機会に恵まれれば一度現地を訪問し、ユニセフの活動の詳細を理解したいという思いが強くなり応募した次第である。

● 視察の感想 ●

南東部の2州（プレイベン、スバイリエン）の農村部を中心に、識字教室、幼児教室、小学校、リハビリ施設、病院、女性と子どものための地区委員会等、さまざまな支援活動の現場を訪問した。

ロバート・チェンバース(※)が指摘しているように、短期間の訪問で「農村の貧困」について理解するのは困難な面がある。しかし、ユニセフのスタッフや通訳のチュイ・ソポワス氏等の尽力で、各訪問先で十分に村の人々にインタビューする時間をもつことができた。写真やビデオについても、ほとんど全ての場所で許可を頂き、撮影することができた。その結果、支援活動の詳細や村の様子、貧困の実態について、かなりの程度まで理解できたように思える。

関係者の皆様方に感謝致します。本当にありがとうございました。

（※）
ロバート・チェンバース『第三世界の農村開発　貧困の解決―私たちにできること―』（1995年、穂積智夫・甲斐田万智子監訳、明石書店、39－64頁）
監訳者の穂積氏（現ユニセフ・カンボジア事務所上級プログラムコーディネーター）は、短期間で「農村の貧困」について理解できるように今回のスタディツアー実施計画を周到に準備され、ブリーフィングの講師も務められた。

幼児教室の子どもたち
Ⓒ松井克行

地区委員会のようす
Ⓒ松井克行

家庭内暴力についてのロール・プレイ
Ⓒ松井克行

ゲームで文字を学ぶ小学生
Ⓒ松井克行

●学校での取り組み―2つの授業実践報告

以下、帰国後に実施した授業実践について報告する。

⑴中学生対象の公開講座
「国際理解講座―楽しみながらわかる世界の現実―」

（8月下旬に実施した2日間の活動の一部。90分。20名参加）

①使用した教材

・ユニセフビデオ
「ユニセフと地球のともだち」（1999年製作。14分）
…ユニセフ活動の６つの柱、ユニセフの歴史、日本との関係等についてコンパクトにまとめた優れた教材。小学生から一般まで幅広く活用できる。導入にお勧め！
・アクティビティ「貧困はどこから」
『ユニセフの開発のための教育ー地球市民を育てるための実践ガイドブック』17-20頁
…同書は、「参加体験型教材」を数多く紹介しており、小学生から一般まで幅広く活用できる。
「自作カード」（※）を追加。
・自作ビデオ（10分）…カンボジアでの支援活動を撮影。

②学習目標

・ユニセフビデオで、ユニセフ活動の概要を理解する。
・「貧困はどこから」では、「貧困の悪循環」の問題構造を理解し、さらに「貧困の悪循環」を解決する手段を考える。
・自作ビデオで、カンボジアでのユニセフの活動と現地の様子を視聴し、途上国への支援についての理解を深める。

③活動内容

「貧困はどこから」は、各班で「栄養不良」、「失業」等、８枚の「貧困カード」を基に話し合い、「貧困」の原因ー結果の悪循環の図を作成する活動と、悪循環を断ち切るための「栄養」、「保健」等、10枚の「対策カード」を使って「貧困」の解決策を学ぶ活動の2つで構成されている。

話し合いの結果を班ごとに発表させた後、実際にカンボジアで行われている支援例について自作ビデオを視聴させた。

（※）「自作カード」
「貧困はどこから」の実施に先立ち、視察で学んだ知見を活かすべく、カンボジアの実態に即した「自作カード」を作成した。追加したのは「貧困カード」として、「HIV／エイズ」、「不衛生」、「天然資源が乏しくめぼしい産業もない」、「紛争の後遺症」の4枚。「対策カード」として、「HIV／エイズ予防」、「豊かな自然環境を活かした観光業や、独自性のある伝統産業を育成」、「地雷や不発弾の除去、危険性の教育、被害者保護」の3枚。

中学生の感想例（一部、抜粋）
「カードを並べ、資料を作るのは楽しかった。そろって意見を言い合うのがとても印象的だった」
「ビデオを見て、実際に貧しい国の子どもたちを見て驚きました」
「世界の現実としっかり向き合うことができた。これから世界に目を向けてみようと思った」

「地雷」や「不発弾」の除去、危険性の教育、被害者保護

自作「対策カード」の一例
Ⓒ松井克行

「貧困はどこから」の発表会
Ⓒ松井克行

ビデオ映像の視聴
Ⓒ松井克行

⑵高校3年生対象の科目「時事問題」
「カンボジアへの援助―子どもたちの未来のために―」

（8月下旬～9月初旬実施。50分×4時限。30名参加）

①使用した教材

1時限目
・自作のプレゼンテーション資料
…カンボジアの地理的・歴史的概観、現状、ユニセフ活動の概略、具体的な支援活動について、現地で撮影した写真を基に構成。
2時限目
・自作ビデオ（約40分）
3時限目
・ユニセフビデオ「カンボジアの子どもと未来
一教育と識字プロジェクト」（2000年製作。15分）
…6年前のカンボジア北部の農村部の様子を描いている。北部では南部と異なり地雷埋設量が多いため、「地雷教育」が盛んである。
4時限目
・「日本ユニセフ協会スタディツアー2005のビデオ」（9分35秒）
…記録用に撮影し、短く編集されたもの。

②学習目標

・カンボジアでのユニセフ活動の概略を理解する。（1時限目）
・複数のビデオ映像を比較し、その違いに気づく。(2～4時限目)

③学習内容

当初は２時限の予定で、カンボジアやユニセフについての説明と、自作ビデオを視聴させながら支援活動の詳細や現地の様子の解説に留める予定であったが、カンボジア視察の経験のごく一部しか伝えられなかった。にもかかわらず、生徒たちは講義からカンボジアの全てを理解したような感想を書いており、認識のギャップが気になった。

そこで授業予定を変更し、さらに2時限を追加し、カンボジア北部の6年前の活動を描いたビデオ、今回のツアー記録用に編集されたビデオ（撮影者は異なる）を比較させた。ビデオ映像は「事実」の全体像ではなく、撮影者の取捨選択により切り取られた一部の「事実」に過ぎない。従って、生徒は、映像の特性と限界を意識した上で視聴し、真実を読み解く必要がある。そのような「メディア・リテラシー」の学習過程を追加したのである。

授業後の感想例（一部、抜粋）
「同じツアーで内容は同じはずなのに、同じように見えなかった。だからきっと３パターンのビデオがあるなら３通りの内容があっただろうし、本当にその映像の意味を理解するならば、何通りかのものを見なくてはいけないと思う。でも美化されたものも中にはあると思うので、こういう物も情報の取捨選択を自分でしなくてはいけないと思う」